

脱炭素×観光による地域振興WG

2026年2月17日

WG事務局:合同会社オトナリ

観光WGの活動について(1/2)

<p>WG承認年月</p>	<p>2023年9月</p>		
<p>参加団体・個人</p>	<p>※敬称略、50音順(2026年1月現在27団体、個人8名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アイ・シー・ネット株式会社 ● 株式会社インアウトバウンド仙台・松島 ● 株式会社インプリージョン ● 合同会社オトナリ ● 郡山観光交通株式会社・孫の手トラベル ● コニカミノルタジャパン株式会社 ● 正林国際特許商標事務所 ● 住友商事株式会社 ● 大成建設株式会社 ● 大和田測量設計 ● 大和ハウス工業株式会社 ● 株式会社テレビュー福島 ● 獨協大学 ● ならば未来・東日本国際大学 ● 日本エヌ・ユー・エス株式会社 ● NPO法人バーチャルライツ ● HAMADOORI13 ● 株式会社バイオマスレジソホールディングス ● 株式会社ふたば ● 福島学院大学 ● 福島交通観光株式会社 ● 福島民報社 ● 福島民友新聞社 ● 富士通株式会社 ● 宮城大学 ● 株式会社JTB ● リクルート株式会社 		
<p>活動経緯 (概要)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年3月 プラットフォーム立ち上げ ● 2023年6月 観光WGを設立準備 ● 2023年9月 観光WG設立 ● 2023年10月 定例報告(メール) ● 2023年10月 WG内関係者ヒアリング(オンライン)実施 ● 2023年10月 総会参加(ポスターセッション参加、発表) ● 2023年11月 定例報告(メール) ● 2024年12月 定例報告(オンライン)※体制図の完成 ● 2024年1月 定例報告(オフライン小沢先生宅/オンライン) ● 2024年3月 定例報告(オンライン)※PF方針可視化 ● 2024年3月 総会参加(ポスターセッション参加、発表) ● 2024年3月 WG内交流会(東京) ● 2024年4月 WG内notionによる情報管理開始(現在はクローズ) ● 2024年9月 定例報告(オンライン) ● 2024年11月 東京電力訪問、浜通り自治体訪問 ● 2024年10月 メディアの実証実験開始 ● 2024年12月 観光WGアンケート実施 ● 2025年1月 自治体、福島観光物産交流協会訪問 ● 2025年1月 HAMADOORI13参加 ● 2025年2月 総会参加 ● 2025年4月 HAMADORI CIRCLE PROJECT 2025参加 ● 2025年6月 東京電力 福島第一原子力発電所 視察 ● 2025年6月 水素ツアー実施(孫の手トラベル様) ● 2025年8月 メディア開発、取材開始 ● 2025年10月 ふくしま浜街道トレイル協業 ● 2025年10月 HAMADOORI CIRCLE 2025 in浜フェス参加 ● 2025年10月 東京大学 新領域創成科学研究科小林研究所協業 ● 2026年2月 実証ツアー/メディアとサービス公開 		

観光WGの活動について(2/2)

活動結果

【総括】WG活動を通じて、プラットフォーム内における企業間連携の促進や、浜通り地域におけるネットワーク構築および実績づくりが進んだ。また、関係者へのヒアリングを重ねる中で、一般的な観光旅行よりも、まずは地域産業の支援や関係人口の増加を目的とした視察・交流ツアーに高いニーズがあることが明らかとなった。

① 水素をはじめとした脱炭素・環境分野に関する法人向けツアーの事業展開を目指す。

プラットフォームのテーマである「浜通り×脱炭素・環境分野」に基づき、浜通り地域を中心とした法人向け視察・交流ツアーをメニュー化、引き続き浜通りエリアおよび福島県内における実績の創出を図る。

② 地域単位で社会課題を紹介するメディアをリリースし、情報拡散および共創の創出を目指す。

プラットフォームのテーマである「浜通り×脱炭素・環境分野」をコンテンツテーマに包括するメディアを公開する。あわせて、企業・人・プロジェクト間のマッチングや、実践的なワークの機会に対するニーズが確認されたことから、情報発信にとどまらない共創支援を含む事業展開へと方向性を転換する判断に至った。

③次世代と共に考える、廃炉、中間貯蔵施設についてデジタルコンテンツツアーの実装を目指す。

廃炉や中間貯蔵施設など、浜通り地域が抱える社会課題について、地域内にとどまらず広域的な視点で捉え、検討・共有していく仕組みづくりに対して、地域から特に高いニーズがあることが明らかとなった。

今後の予定

【2026年度の目標・方向性・将来像】

- ①②についてはすでに実装済みであることから、今後はプラットフォームおよびWGの枠組みを活用し、事務局としてWGメンバーへの継続的な情報提供を行う。あわせて、ツアー企画やメディア掲載等を通じて、より一層の連携強化と共創の創出を目指していく。
- ③については、パートナーの東京大学と連携し、まずはフィールドワーク、ワークショップの実現に向けた具体的な取り組みを進める。

【2030年度の目標・方向性・将来像】

- ①②については、事業化を目指すとともに、浜通りおよび福島県における取り組みを先行モデルとして確立し、その成果や知見を整理・蓄積することで、他地域への波及効果が期待できる仕組みとして、国内外への横展開を図っていくことを目指す。まちづくり分野では、検討した解決策について自治体・事業者へヒアリングを実施し、マッチングや受け入れ可能性、地域課題との同時解決やコベネフィットの検討結果を取りまとめる。
- ③については、浜通りおよび福島県を起点に、社会課題解決の先行モデルを確立し、産学官・地域が連携する共創プラットフォームとして国内外へ展開する。あわせて、浜通り地域を実証・検証・人材育成が循環する「研究フィールド」として位置づけ、大学・研究機関・企業が継続的に関与する仕組みを構築することで、地域課題を広域的に捉えた知見の創出と社会実装につなげていく。

【脱炭素×観光による地域振興WG】

参加団体等による
脱炭素製品・サービス提案一覧

WGが提案する施策

主要な地域課題

- 取り組まれている先進的な脱炭素施策や最先端事業について、その価値や成果の認知が限定的
- 浜通り特有の社会課題について、地域内にとどまらず、地域外の企業・研究機関などと議論する機会が少ない
- 地理的条件やアクセス面の制約により、現地訪問のハードルが高い
- 浜通りから広域に向けた継続的な情報発信・拡散の仕組みが十分に整っていない
- 宿泊施設や交通手段など、受け入れ環境(インフラ)が発展途上にある。

対応する脱炭素方策

- 浜通りで進められている先進的な脱炭素施策や最先端事業について、事例や成果を体系的に整理し、分かりやすく発信する
- 浜通り特有の社会課題をテーマに、地域外の企業・研究機関・人材も参加可能な共創の場を設け、広域的な議論と連携を促進する。
- 現地訪問が難しい層に向けて、オンライン視察やハイブリッド型プログラムを活用する。
- 視察・交流ツアーやワークショップ等を通じて、浜通りから国内外へ向けた継続的な情報発信・拡散を行う。

実証実験<提案・アイデア>

- ①水素をはじめとした脱炭素・環境分野に関する法人向けツアーの事業展開を目指す
- ②地域単位で社会課題を紹介するメディアをリリースし、情報拡散および共創の創出を目指す
- ③次世代と共に考える、廃炉、中間貯蔵施設についてデジタルコンテンツツアーの実装を目指す。

想定される課題

- ・浜通り地域における脱炭素施策や先進事業の情報が多岐にわたり、整理・体系化に一定の時間と労力を要する可能性がある。
- ・地域外の企業・研究機関・人材との継続的な関係構築に向けて、参加動機や関与の深度にばらつきが生じる可能性がある。
- ・視察・交流プログラムの企画・運営において、受け入れ側の人的・時間的リソースに負荷がかかる可能性がある。
- ・宿泊・交通等の受け入れ環境が十分に整っていない中で、参加者満足度の確保が課題となる可能性がある。
- ・情報発信やメディア運営を継続していくための体制・コストの確保が必要となる。
- ・事業成果(共創・脱炭素効果等)を定量的に示す指標設定が難しい可能性がある。

実装

観光・情報分野における脱炭素に貢献する製品・サービスについて、「WG参加団体等による脱炭素製品・サービス提案一覧」としてとりまとめました。

提案一覧

※企業名50音順

企業名	所在地	提案概要	詳細
合同会社オトナリ	東京都調布市	住友商事東北株式会社は、住友商事グループの東北拠点として、エネルギー、食料、金属、インフラ、流通など幅広い分野で事業を展開。地域企業や自治体と連携し、東北の産業振興と持続的な地域発展に貢献しています。	P8 P9
住友商事東北株式会社	宮城県仙台市	住友商事東北株式会社は、住友商事グループの東北拠点として、エネルギー、食料、金属、インフラ、流通など幅広い分野で事業を展開。地域企業や自治体と連携し、東北の産業振興と持続的な地域発展に貢献しています。	P10 P11
株式会社JTB福島支店	福島県福島市	JTBグループは、旅行・MICE事業を通じて脱炭素社会の実現に取り組んでいます。「CO ₂ ゼロ旅行®」では、移動や滞在に伴うCO ₂ 排出量を可視化・オフセットし、地域の環境価値向上と持続可能な観光・交流を推進しています。	P12 P13
郡山観光交通株式会社	福島県郡山市	タクシー・観光バス・福祉輸送などを展開する山口タクシーグループの中核企業で、郡山市を拠点に県内一円をカバーする交通事業者です。1967年設立、地域密着型のサービス網を強みに、多様な旅客輸送と関連事業(運送業・小売業・旅行業・飲食業)を手がけています。	P14
株式会社孫の手	福島県郡山市	2008年設立。郡山観光交通(山口タクシーグループ)から生まれた地域密着型の旅行会社で、自宅送迎付きツアーやフードキャンプなど独自の体験型旅行を企画・運営しています。福島の食・自然・文化の魅力を伝える事業から生まれた直営レストラン「Best Table」、「水素ツーリズム」を核とし企業団体向け研修ツアー等も展開しています。今後は地域誘客事業として訪日外国人の受け入れにも力を入れていきます。	P15 P16
株式会社ふたば	福島県富岡町	昭和46年創業。社会資本に関するコンサルティング等を実施。福島において、従来の社会資本整備調査に関する測量・設計に加え、まちづくり、森林調査、遺跡・文化財調査等の取組を実施してきた。今後も様々な分野の技術提供を通じて「社会コンサルタント」を目指しながら、復興へ貢献してまいります。	P17 P18

【合同会社オトナリ】share local stories 共感でつながるストーリーが、地域の資産になる

「SHARE LOCAL STORIES」は、地域からの情報発信をサポートするプラットフォームです。
魅力ある地域資源の発掘や、人・企業・プロジェクトとのマッチングを支援します。
まだ知られていない地域の魅力を「ストーリー」として届け、共感を生み、拡散へとつなげていきます。



地域単位の情報発信

share local stories
- hamadori -

社会課題
環境課題

AIをはじめ
最新技術

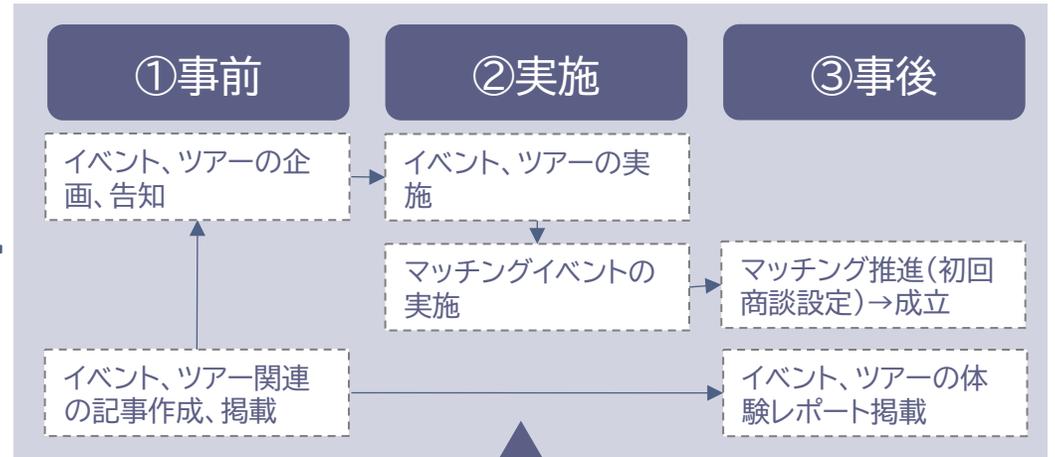
新しい
ライフスタイル

発信しきれない
魅力ある地域資源を
共感を生む発信力に
変換する。



もっと知りたい
日本のことを
地域のことを
STORYを

share local storiesのビジョン



地元の自治体・企業・団体と連携し、
講演会・ツアー・ワークショップ企画を実施
広域に向けた情報発信やマッチングをサポート

①国内外のトレンドに敏感な“アーリーアダプター”層に届ける、
ターゲットのライフスタイルや価値観に寄り添い、感性・社会性・先進性を
意識した地域記事(ストーリー)を作成、情報拡散する。

②ストーリーを地域の資産として、人・企業・プロジェクトのマッチングを
うながすための、イベント(オンライン・オフライン)を開催する。

【合同プロジェクト】

廃炉および中間貯蔵に関する経験の継承— 次世代と考える記憶のデジタルコンテンツツア—

東京大学新領域創成科学研究所小林研究所 × 合同会社オトナリ 大成建設株式会社 × コニカミノルタジャパン株式会社

本プロジェクトでは、廃炉および中間貯蔵の現場や関係者や地域の声を起点に、次世代が自ら問いを立て、対話と探究を通じて「経験」を再解釈する機会を創出する。フィールドワーク、ワークショップ、成果発信を組み合わせ、記憶を一過性の学びで終わらせず、未来に引き継ぐための表現と仕組みを共に考える。

①プロジェクトの立案	②次世代関係者へのワークショップを実施	③レポート発表・意見交換	④記憶のコンテンツの企画・作成
【プロジェクト立案】東京大学新領域創成科学研究所小林研究所 × 合同会社オトナリ	【ワークショップ実施】合同プロジェクトチーム	【発表、意見交換実施】合同プロジェクトチーム	【開発実施】合同プロジェクトチーム
	県内外の学校や団体など、次世代が参加	県内外の学校や団体など、次世代が参加	県内外の学校や団体など、次世代が参加
・プロジェクト立案 ープロジェクトの目的 ープロジェクトシナリオ作成 ーターゲット、参加者設計	・ワークショップの開催 ・ワークショップの記録 ・次世代のリアルな声収集 ・参加団体の評価・反応	・ワークショップの分析レポート作成 ・次世代にむけた意見交換や発表会の実施	・コンテンツ企画 ・コンテンツ開発 ・プロジェクト進捗報告

東京大学大学院 小林研究所について

東京大学大学院新領域創成科学研究科・小林研究所は、環境・情報・空間科学を融合した研究を推進しています。地域課題の解決や社会実装を見据えた研究を行う研究室です。産学官連携やフィールド型研究にも取り組んでいます。

福島県新地町での地域共創プロジェクト

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、福島県浜通り地域(相馬郡新地町)を拠点に、産学官・地域住民が協働する持続可能なまちづくりへの取り組みを進めています。この事業は、福島イノベーション・コースト構想推進機構の支援のもと、2018年度から「公・民・学共創による持続可能なまちづくりを通じた復興知人材育成事業」として展開されています。さらに、2023年度からは東京大学消費生活協同組合と連携し、福島産直フェア(新地町の農林水産物を紹介・体験するイベント)を開催するなど、地域の魅力を発信する取り組みも行われています。

【住友商事東北株式会社】住友商事グループのカーボンニュートラル



https://www.canva.com/design/DAFysGqr4V0/myMSm7MWWqFFHzYLRk_qXQ/view?utm_content=DAFysGqr4V0&utm_campaign=designshare&utm_medium=link&utm_source=editor#1



太陽光

省エネ

蓄電池

EV関連

水素

コンサルティング

証書・クレジット

サーキュラーエコノミー

そのほか

【住友商事東北株式会社】住友商事グループのカーボンニュートラル

https://www.canva.com/design/DAFysGqr4V0/myMSm7MWWqFFHzYLRk_qXQ/view?utm_content=DAFysGqr4V0&utm_campaign=designshare&utm_medium=link&utm_source=editor#1



株式会社エネサンスホールディングス
経営企画部
太陽光発電 & 蓄電池

詳しくはこちら

太陽光発電は、環境にやさしいのはもちろんのこと、光熱費の削減や停電時の安心など、多様なメリットがあります。また、昼間に発電して余った電気を蓄電池に貯めることで発電しない時間帯でも使うことも可能です。

蓄電池とは電気を貯蓄できるシステムです。太陽光発電システムを導入すれば、パネルで発電した電気を蓄電池に貯められます。電気代を安く抑えられたり、災害時でも電気を使用できるメリットがあります。

特徴

災害に対するレジリエンスの向上
「売る」時代から「使う」時代へ
蓄電池の使用

住友三井オートサービス株式会社
EV&カーボンニュートラル戦略推進部
SMAS EVワンストップサービス

詳しくはこちら

移動の進化で社会を変える

モビリティプラットフォーム

オートリース業界のリーディングカンパニーである当社は、クルマ社会の発展と地球環境の向上に寄与することを目指し、「サステナブルな社会に向けたモビリティプラットフォーム」というビジョンを掲げています。私たちは、ヒトとモノの移動に関する多様なニーズに応える「総合モビリティサービス」を通じて、サステナブルな未来の創造に努めてまいります。

STEP1: Mobility Passport 専用管理アプリ化
STEP2: 車庫管理の自動化
STEP3: REVIDO 車庫管理プラットフォーム
STEP4: EV充電 充電ステーションの設置

株式会社エネサンスホールディングス
経営企画部
GHP (ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン)

詳しくはこちら

GHPとは、室外機のコンプレッサーをガスエンジンで駆動し、ヒートポンプによって冷暖房を行う空調システムです。消費電力が電気ヒートポンプに比べて約10分の1になることから、契約電力に大きな余裕が生まれ、割引ガス料金制度もあるため、ランニングコストを大幅に節約できます。また、CN-LPG (カーボンニュートラルLPG) を燃料とした場合、GHG排出量を実質ゼロにすることが可能です。

特徴

災害に対するレジリエンスの向上
パワフルな暖房能力

ジクシス株式会社
経営企画部
カーボンオフセットLPG

詳しくはこちら

ジクシス株式会社はLPGガスの輸入・元売り企業として日本全域にLPGガスを供給しています。ボランタリー・クレジットやJ-クレジットにより、LPG使用に伴う温室効果ガスをオフセットしたカーボンオフセットLPGをご提案・ご提供致します。温室効果ガス削減の取組みとして、カーボンオフセットLPGの活用をご検討下さい。

特徴

期待効果

LPGの生産から消費(燃焼)に至るバリューチェーン全体で発生すると見込まれる温室効果ガスをクレジット認定機関が認めたカーボンクレジットにより相殺(オフセット)したLPGです。

自主的な脱炭素化プロジェクトとして、環境保護活動によりボランタリー・クレジットを履行し、温室効果ガス削減だけでなく、SDGsの目標達成や雇用創出も実現します。特に、クレジットと組み合わせたカーボンオフセットLPGの導入は、国内法への報告にも役立ち、産業用ボイラーやビルハウスの燃料転換による温室効果ガスの削減が可能です。これにより、環境への貢献と競合他社との差別化が期待できます。

LPガスのバリューチェーン

産ガス国 国内製油所 → 調達 輸送 → 輸入 貯蔵 → 卸配送 → 貯蔵 充填 → 小売配送 → 消費

温室効果ガス排出量をオフセット

住友商事九州株式会社
FIT非化石証書 仲介サービス

詳しくはこちら

非化石証書とは、再生可能エネルギーで発電された電気の「非化石価値」を取り出し、証書として売買可能なものです。FIT非化石証書(再生可能エネルギー指定なし)の3種類があり、当社はFIT非化石証書について仲介サービスの提供を行っています。

解決できる課題

非化石証書は、他社から供給された電気(GHGプロトコル SCOPE 2)を再生可能エネルギーとみなすことが可能です。国内法である対法(地球温暖化対策推進法)、RE100等の国際的な環境イニシアティブへの回答・報告、自社HP等での「実質再生可能エネルギーの使用」、「電気の地産地消」などの独自のPRに活用いただけます。

当社からの購入メリット

- ✓ 入会・年会費が不要
- ✓ 複雑な入手手続きが不要
- ✓ 数量確保のサポート
- ✓ 他カーボンクレジットのご提供
- ✓ 最新のクレジット情報のご提供

料金

証書代金 入札単価 0.4円 × 数量 (kwh)
仲介手数料
※入札単価0.4円は2024年度の相場の目安です。お申し込み時点での相場やご希望の属性情報等に基づき別途お見積りさせていただきます。

・実質再生可能エネルギー
・使用電力のよさCO2排出ゼロ
・電気の地産地消 など

住友商事ケミカル株式会社
マテリアルリサイクルの取り組み

詳しくはこちら

廃プラスチック問題に取り組み、新たな分別・選別・洗浄・加工・改質技術のベストミックスで、可能な限り上流リサイクルを実現し、カーボンニュートラルに資する事業活動を展開します。

廃プラスチック回収 → 分別・洗浄・選別 → 再生原料製造 (ペレタイズ) → 再生ペレット → 廃プラスチック回収

自動車部品、クラフトパルプ等 単独用品、飲料用コンテナ

高品質・高純度による 水リサイクル化

回収残も用いてより付加価値の高い用途へ

ケミカルリサイクル

【株式会社JTB】CO₂ゼロ旅行®

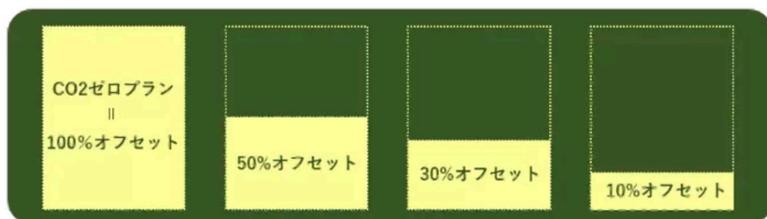


CO₂ゼロ旅行®(※1)は、旅行中に排出するCO₂をJ-クレジット制度(※2)を活用することで実質ゼロにするものです。CO₂の排出は、国連が定めたSDGsの取り組みからもわかるように、今や世界的に大きな問題です。「次世代を担う子どもたちのために、少しでも美しい地球を残したい」そんな思いからこのプログラムは生まれました。気候変動への具体的な取り組みとして…その第一歩として、CO₂ゼロ旅行®を活用してみませんか？

特徴01 選べる4プラン

CO₂ゼロ旅行®では、移動や宿泊で発生したCO₂をオフセットします。

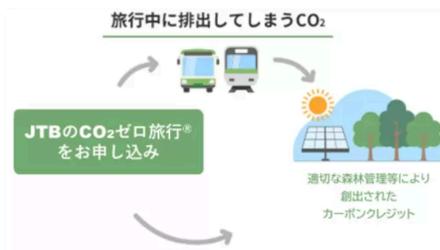
移動で発生したCO₂に対しては、何%オフセットするのか、4プランより選択可能です。



特徴02 無効化通知書の発行

国が発行する、J-クレジットが無効化されたことを証明する公的な証明書です。電子納品ですので、HP等に掲載することが可能です。

SDGsへの取り組みに関する対外的なPR等にお役立ていただけます。



※ 無効化通知書を発行する場合、1,100円（税込）の発行手数料がかかります。

特徴03 各種機関への報告活用

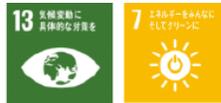
CO₂ゼロ旅行®は、SDGsやCSR活動における環境配慮への取り組みとしてはもちろん、ISO規格（14068-1）やSHK制度に基づく報告等にご活用いただけます。（※）

※ 一部の公的な報告には活用できません。

「CO₂ゼロ旅行®」活用のメリット



【株式会社JTB】CO₂ゼロMICE®



CO₂ゼロMICE® とは

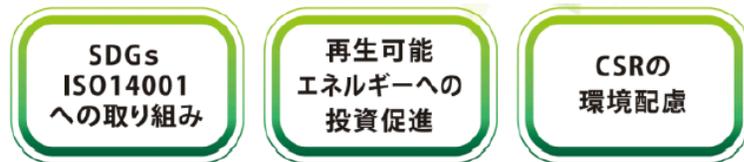
イベントを実施する際に、その会場で使用される電気を再生可能エネルギーに置き換えることで、CO₂を実質0にできるサービスです。再生可能エネルギーの調達、実際に使用されたエネルギーが再生可能エネルギーの環境価値(※1)としてどれほどなのかを算出し、事後検証などを含めてパッケージにした商品です。

(※1)再生可能エネルギーの利用によってもたらされる電気エネルギー以外の付加価値のこと



こんな効果が期待できます

- SDGsやISO14001への取り組みによる企業評価向上
- 企業ブランド価値向上により、CO₂削減に取り組む企業として新たなファン創出
- ESG対策として利用することでファイナンス評価向上
- 株主総会や顧客向けイベントで利用することにより顧客満足度・企業評価向上
- SDGsへの積極的な取り組みによるインナーブランディング向上
- 東京都総量削減義務や温対法などの義務に貢献



これを解決できるのが
CO₂ゼロMICE®



●「CO₂ゼロ」で
イベントを開催する旨の告知ができます。

※イベントページへの掲載やリリースが可能です。

●再生可能エネルギー使用の
証書をお渡しします。

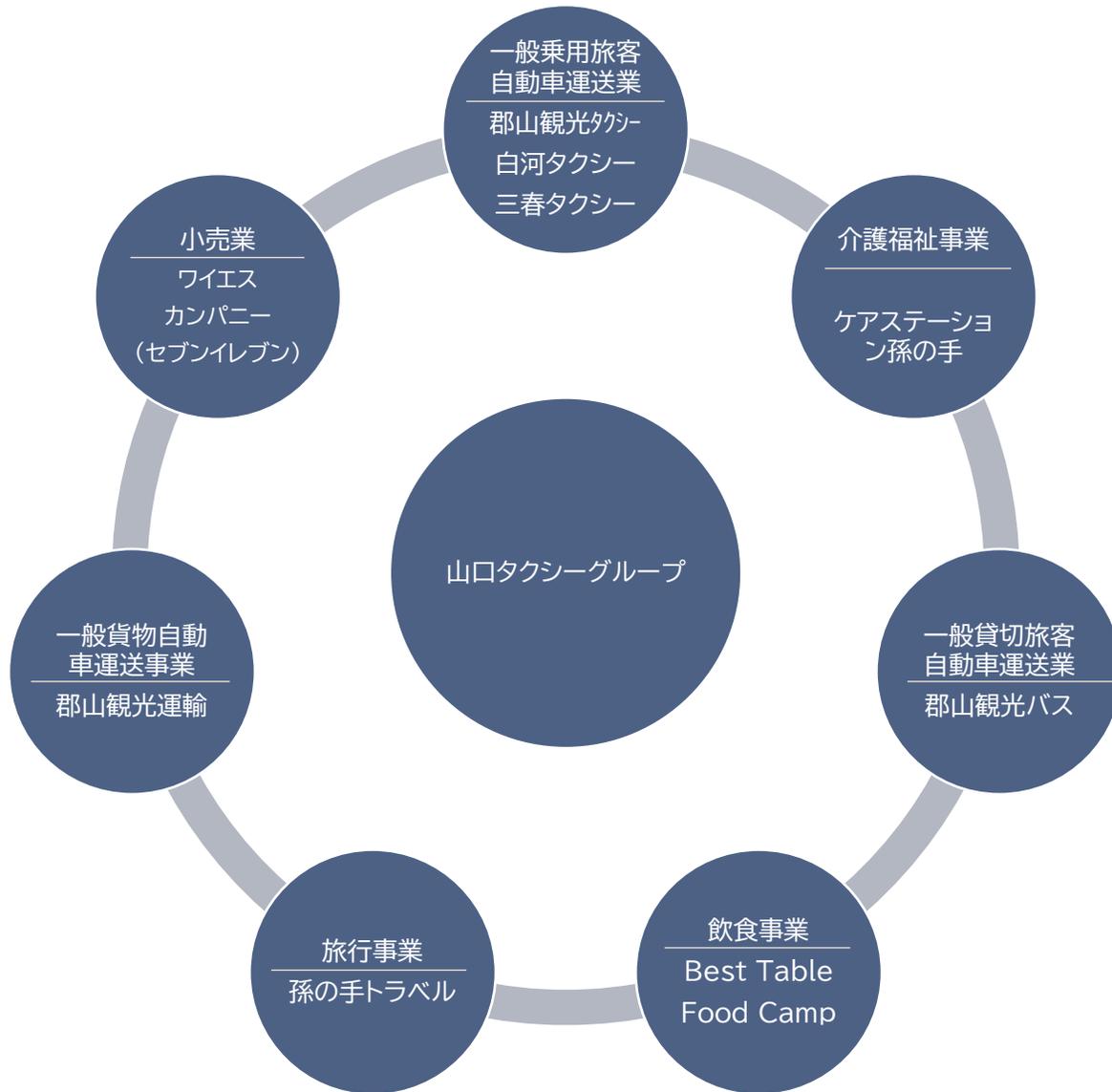
※証書は社内外へのSDGsをはじめ、環境保全への
取り組み活動報告として告知可能です。

●オンライン会議、オンラインイベントにも対応！

●東京都削減義務や温対法などにも
ご利用可能です。



【郡山観光交通株式会社】 ◆“地域密着”の経営理念のもとに地域と共に発展し続ける。



グループの総合力で ワンストップサービスを

貸切バス



一般タクシー



貸切ハイヤー:アルファード



貸切ハイヤー:MIRAI



【株式会社孫の手(孫の手トラベル)】地域のめぐみで、笑顔をつなぐ

アウトドアレストラン事業
Food Camp®



トラベル事業
孫の手トラベルバスツアー



地域交通事業
定額タクシーヤマグチくん



飲食事業
旬のベジカフェバルBest Table®



地域誘客事業
水素ツーリズム®/インバウンド



- 2008年
孫の手トラベル設立。旅行業開始。
- 2015年
アウトドアレストラン事業開始 (FoodCamp)
- 2016年
レストラン事業開始 (Best Table)
- 2018年
「新しい東北」産業復興事例 復興大臣顕彰
- 2018年
定額乗り放題タクシー 国交省社会実験実施
- 2019年
第7回グッドライフアワード環境大臣賞優秀賞
- 2024年
地域誘客事業開始 (インバウンド事業含む)

【株式会社孫の手(孫の手トラベル)】地域のめぐみで、笑顔をつなぐ



未来を走る旅

水素ツーリズム®
視察・研修プログラム



『水素ツーリズム®』とは

株式会社孫の手(孫の手トラベル)が推進する「水素ツーリズム®」は、福島県を舞台に、再生エネルギーや最先端水素技術を体感できる新しい観光スタイルです。福島県内では水素関連の様々な実証実験が行われており、その施設を見学することにより世界の変わり目を体感いただけます。また、ツアーには必ず地元の旬を味わうプログラムに加え、地元食文化や自然景観も楽しめます。「水素がなぜ今必要なのか?」「水素がなぜ福島なのか?」五感に訴えかける体験型プログラムとして設計されており、企業研修や教育旅行にも最適です。「水素ツーリズム®」は「水素」を入りに、「自然と人間の関わり方」を福島から世界へ発信する「未来を走る旅」です。

代表取締役 山口 松之進

水素エネルギーの特徴

水素エネルギーは、燃焼時にCO₂を排出せず、水のみを生産するクリーンなエネルギー源です。水素は水、天然ガス、バイオマスなど多様な資源から製造でき、特に再生可能エネルギーを利用すれば、製造から使用までCO₂を排出しないカーボンフリーなエネルギーとして活用可能です。日本は、燃料電池技術や水素関連の特許出願件数で世界をリードしており、水素社会の実現に向けた取り組みが進められています。水素エネルギーの普及には、製造、貯蔵、輸送技術の向上やインフラ整備が必要ですが、これらの課題を解決することで、持続可能な社会の実現に大きく貢献することが期待されています。

水素エネルギーのトップランナー

福島県は、再生可能エネルギーの先進地として、水素エネルギーの活用において国内外から注目を集めています。特に「福島インベーション・コースト構想」のもと、浜通り地域を中心に水素、ロボット、ドローン、環境・リサイクルなどの先端技術が集積し、未来志向の産業基盤が形成されています。世界有数規模の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」では、太陽光由来のグリーン水素を製造し、地域内外の実証プロジェクトや水素ステーションと連携することで、持続可能な社会の実現に貢献しています。「水素ツーリズム®」では、こうした福島の魅力と希望を体感できる旅を提供。水素の仕組みや地域の取り組みを学びながら、復興から未来へと進む福島の姿に触れることができます。技術革新と地域再生が融合する福島は、まさに「未来を走る旅」の舞台です。

旅の心強い味方「水素の達人ガイド*」

株式会社孫の手(孫の手トラベル)が展開する「水素ツーリズム®」では、参加者一人ひとりに旅をより深く楽しんでもらうための案内「水素の達人ガイド*」の同行も可能です。水素エネルギーや地域の再生可能エネルギー施設、最先端の技術現場に精通し、専門知識をわかりやすく解説。単なる観光案内ではなく、地域の復興やエネルギーの未来を肌で感じられる体験をサポートします。さらに、参加者の質問や関心に応じてプログラムを柔軟に案内し、学びと感動が交差する旅を提供。持続可能な社会やCO₂削減の取り組みを理解しながら、地域の魅力を存分に楽しむことができます。心強い旅のパートナーです。



研修を通じて得られる

環境教育 × 未来の産業視察 × 復興からの学び × 人材育成

- 環境・エネルギー分野の最新知見**
 - 世界的に注目される「水素社会」の実証事例を現地にて体感。
 - 浪江町のFH2R(水素エネルギー研究フィールド)や水素ステーションで、再生可能エネルギーの製造・供給を学ぶ。
 - 企業の脱炭素戦略やESG投資への対応に直結する情報収集。
- SDGs・脱炭素に向けた研修効果**
 - 持続可能な社会づくりをテーマにした社員研修。
 - 環境意識の醸成、CSR活動や教育研修の一環として活用可能。
 - 環境配慮型企業としてのブランディング強化。
- 復興・まちづくりからの学び**
 - 震災から復興しつつある地域の現状を体感。
 - ゼロからのまちづくりを進める浪江町で「レジリエンス(回復力)」「イノベーション創出」の現場を学ぶ。
 - 危機管理、BCP(事業継続計画)、地域連携の事例研究に役立つ。
- 人材育成・組織活性化**
 - 座学+フィールドワーク+地域交流を組み合わせた「体験型研修」。
 - チームビルディング要素:グループでの課題解決型ワークショップやディスカッションが可能。
 - 若手社員に「未来を描く力」「地域課題を自分ごとにする力」を育む。
- ネットワーク形成・新規ビジネス機会**
 - 水素関連企業・研究機関・自治体との交流を通じたネットワーク構築。
 - 企業同士の脱炭素連携や、新たなビジネス開発の可能性。
 - 「水素の達人ガイド*」など専門人材とのつながりを得られる。

単なる見学ではなく、企業のCSR・ESG・SDGs活動や社員研修に直結するプログラムです。



『水素ツーリズム®』モデルツアー

水素ツーリズム®モデルコース(1泊)

1 各地 JR郡山駅集合・出発 → 福島環境創造センター「コミュニティ福島」 → 昼食 → 道の駅なみえ → FH2R「福島水素エネルギー研究フィールド」 → 棚塩R100産業団地 → ②ふくしまこいの村なみえ → ホテル到着

2 ホテル出発 → ③浪江水素ステーション → イオン浪江店 → 日揮ホールディングまたはロボテックス → 昼食 → 浪江町の取組と振り返り → JR郡山駅到着・解散

水素ツーリズム®モデルコース(2泊)

1 各地 JR郡山駅集合・出発 → 福島環境創造センター「コミュニティ福島」 → 昼食 → 中野野研工事情報センター → 東京電力廃炉資料館 → BAUM HOUSE YONOMORI → ホテル到着 → ④JR双葉駅周辺「FUTABA Art District」 → ⑤東日本大震災・原子力災害伝承館 → 震災遺構「浪江町立清戸小学校」 → FH2R「福島水素エネルギー研究フィールド」 → ⑥ふくしまこいの村なみえ → ⑦ランド・ビルドファーム(和坐) → ⑧夕食:地域を味わう1日限りのアウトドアレストラン「FoodCamp」 → ホテル到着

2 ホテル出発 → ③浪江水素ステーション → ロボテックス → ⑩道の駅なみえ → 昼食 → 浪江町の取組と振り返り → JR郡山駅到着・解散

導入の流れ

STEP1 お問い合わせ

まずは電話・メール・専用フォームよりご連絡ください。ご要望(対人数・目的・日程・研修テーマ等)をお伺いします。お気軽にお問い合わせください。

STEP2 プランニング

目的や対象者に応じたプログラムをご提案。モデルコース(1日視察/2泊3日研修等)をベースにカスタマイズ可能。オンライン事前説明会(ご担当者様向け)も実施可能です。

STEP3 研修実施

水素関連施設の見学・講義・地域交流など、体験型研修を実施。ファシリテーター(水素の達人ガイド)が同行し、理解を深めます。チームワークを意図したディスカッションや振り返りワークも組み込み可能。

STEP4 成果共有・フォローアップ

参加者アンケートやディスカッション内容をレポート化。次回研修や企業内研修への展開につながるフィードバックをご提供。継続研修や企業間交流のご相談にも対応します。

【株式会社ふたば】森林調査・測量 UAVを活用した効率的な調査①

フィールドは、ふるさとから世界まで。



株式会社 ふたば



会社HP



森林調査

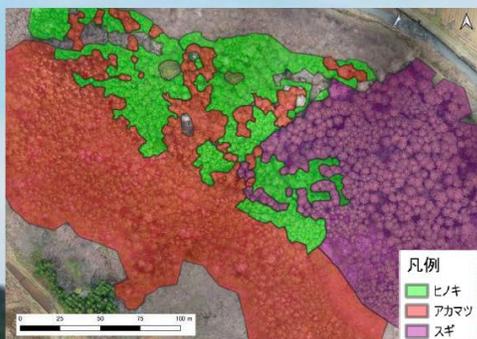
【森林調査・測量】 UAVを活用して効率的に調査を行います

森林資源情報の把握

境界確定

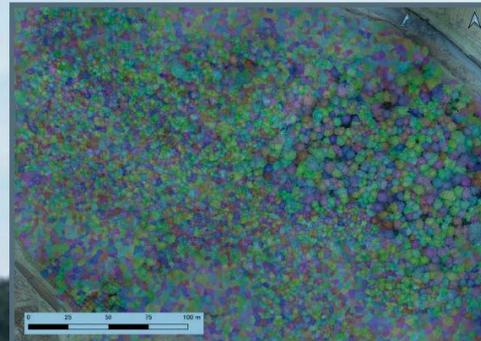
計画策定

UAV写真による樹種分類



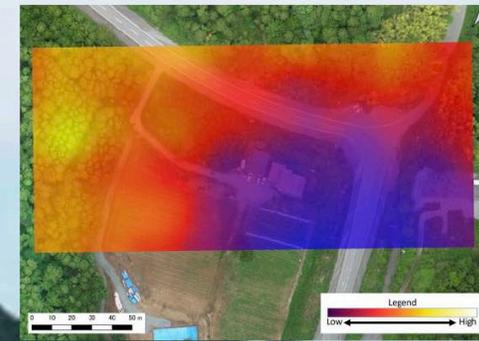
UAV写真により樹種分類を実施します。AIによる自動分類の仕組みを導入し、効率的な針葉樹の樹種分類を実現します。将来的には広葉樹の自動樹種分類を目指します。

三次元点群による毎木解析



UAVレーザ測量による三次元点群データから樹冠境界を推定します。樹冠形状から立木本数・樹高を把握し、材積量の推定などを実施します。

UAV空間線量率計測



地上1m高の空間線量率を面的に解析します。低高度のUAV計測に最適化された手法を用いて、高分解能の解析を実現します。

【株式会社ふたば】森林調査・測量 UAVを活用した効率的な調査②

森林資源情報の把握

境界確定

計画策定

境界の可視化



土地の境界を可視化します。UAV写真に境界を重ねることで範囲を把握することができます。

遠隔での境界確認



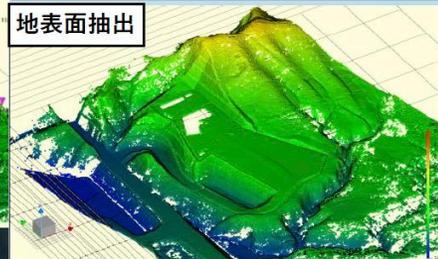
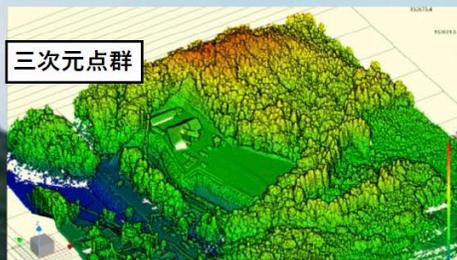
直接現場にお越し頂けない方向けに、遠隔で境界確認できる仕組みを提供します。

森林資源情報の把握

境界確定

計画策定

三次元点群による整備計画



森林の状況把握及び整備計画の基礎資料を作成します。UAVレーザ測量による三次元点群データから森林の地表面を抽出し、正確な3D地形を把握できます。抽出した地表面情報から林道の計画・設計を行うことが可能です。

